

發行編輯人 川崎文治
 印刷所 常磐毎日新聞社
 福島縣石城郡平町長橋町五番地

常磐毎日新聞

定価 一月五圓
 三月十四圓
 半年二十八圓
 一年五十二圓

電話 五〇四番

刊夕日十二月五

關西の旅から (一)
 磐城高女旅行隊

うららかな太陽の光を浴びて私共一百餘人は師の君や可愛らしい妹に送られて平のステーションを後に喜びの心を都へと向けた、車中を面白く晝飯もした、めやがて「上野々々」の驛夫の聲に小さいハートをどろどろかしながらプラットホームに出ました、多勢の卒業生に迎へられいよいよ都の人となりになりました、急に時間が變更になつて十時の汽車に乗込む等五時三十五分に縮つたので豫定通りの見學

が出来なかつたのを残念と思ひましたが後に差つかへるの博物館と明治神宮を参拜することになりました此度は特別に天皇皇后兩陛下御結婚當時の御召服を御借下りになつてありましたので私共の幸運を神に謝して謹んで拜見致しました、見るものすべてがめづらしくかつて夢にさへ想像されぬ様な貴重な品物、又は金銭で得られぬ貴物も見學致しました、それから大急ぎで省線電車に乗り代々木の明治神宮を参拝しました、皆神々しい御質素な御造を拜観して下さるものもありませんでした、それから

新宿へ来てそこより中央線へと乗込みました、飯田町にかつての先生であつた大内先生が出て居られました共々一緒に關西旅行をなさるためにお出になりまして一緒に車中の人となりまして、七時頃からぼつくと寝る人が出て来て笹子峠等は知らない人もありました又峠を越すに八分かつたなご、云つて人も有りました始めての車中宿泊なので先生より度々注意されても眠る事が出来ませんどうも一睡もせずに曉になり五時半に長野驛に下りて洗面してから善光寺と向ひました

和物指器漆
 和器漆屋井久和
 平町一丁目
 電話四〇五番

渡邊藥局
 品藥料染 劑調方處
 平町三丁目
 渡邊政五郎
 (向局便郵)

ハーモニカ
 永田禮次郎氏
 川口章吾氏
 岡本潔氏
 松屋金五郎氏
 吹込のレコード行ります
 平町四丁目

會出時計店

開店御披露
 爲め左記之通り

五月二十三日より開店祝の
 カツレツ 金二十錢
 カレーライス 金二十錢
 ハヤシライス 金二十錢

カフエース・ブラン
 平町四丁目(農工銀行横通)

女給數名募集
 滋養 カルミン 明治製菓會社

代理店 マツモトヤ



遂にハーモリン時代来る!
 「ハーモニカよりハーモリンへ……接せよ!!!」
 △一流大家の藝術を讀へよ!!!ハーモリンの音色を
 ▽抱けよ優美なるハーモリンを
 ▽行けよ!!!晩春初夏の野山に!!!

ハーモリン特約店 柴田書店
 平町四丁目

青葉と夏の装
 爽した青葉の季節となりました
 春から夏への新柄が入荷致しました

セルと夏の帯側
 銘仙と 紵羽織

中野呉服店
 平町三丁目 電話六七番

牛ト食糧問題
 米食ノ大和民族ハ食糧難ニ陥ル
 食糧ヲ水田ニノミ求ムルハ今ヤ不可ナリ
 範ヲ陸田國ニ探レ且ツ盛ンニ牛ヲ養ヘ
 而シテ肉ト乳トヲ食用セヨ
 肉ハ草ニ在リ 糞桿ニ在リ

牛二九八 三二二三屋
 電話三二三番

社員招聘
 東恒産株式會社 磐城支社
 平郡役所通リ

最も權威ある業務にして
 外交的手腕を有する士を望む
 月收百圓内外
 ……委細面談…… 電話六〇三番

齒科
 平町土橋通り
 原齒科醫院
 電話卅一番

大音堂
 平町四丁目

同業警城民報社の 標本看板を破壊し

山田緑雨召喚さる

本社長の留守宅で喚き
星一氏の講演にも妨害
十七日の聚樂館に於ける町
制刷新演説會に於て大瀧發
電所問題に關する利權派の
提灯持ちを爲したる演説に
對し傍聴中なりし川崎本社
長は其誤れる點を指擲して
辯士に

質問を

發し多數の
聽衆も是れに和して一時場
内は總立ちの混亂状態に陥
り續いて登壇する辯士なく
有耶無耶の内に散會するの
止むなきに至つたが主催者
たる平町研町自稱新聞記者
山田緑雨は是れを目して本
社社長が妨害的

行動に

出で言論を
壓迫したるものと誤信し昨
日午後一時頃酒氣を帯びて
長橋町なる川崎本社社長宅に
至り社長不在中なるを知る
や急に威たけ高となり大聲
を發して喚き立て近隣の者
に制止されて其儘立ち去つ
たが更らに午後六時半頃同
業日刊新聞警城民報社が一
〇活版所前に建て、置いた
標本の同社

看板を

引抜いて是
れを滅茶々に破壊する等
言語に絶せる暴行を働いた
上其足にて聚樂館に開會中
なりし星一氏の冷涼法講演
會に闖入し星一氏の學術講
演に對して妨害的野卑なる

豊間の大漁

一日一萬圓

石城郡豊間村の大敷網が頗
る好成绩をあげて居ること
は既報の如くだが去る十日

受験準備の講習會

警中同窓會主催にて

昨年滑川警中校長、新田目
辯護士、山崎軍人分會長が
發起となり警中同窓會主催
で高等學校入學者の爲め夏
季講習會を開き良成績を示
したが本年も是れを開く事
となり國語、漢文、英語

數學の

四科目を受
験者に講習せしむべく講師
は警中の教諭及び同校出身
の帝大卒業生にて七月末頃
から廿五日間警中校舎にて
開く由、因に同窓會長新田
目春松氏は語る「此の講習
を受けて十官學校や高等學
校へ合格した學生諸君が

受験に

合格する事
が出来たのは講習會の力に
依るものであるから七本
年も受験者の爲めに開いて



家庭欄

臭氣止めと驅蟲法

桐の青葉を二三枚便器の中
に入れて置きますと、臭氣
がなくなり且つ蛆も生じま
せん。夏密柑の皮を便所へ

瓶二本を破壊したと
入れておきますと、矢張り
臭氣止めになり、蛆も生じ
ません、無花果の葉を四五
枚入れて置いても虫が生じ
ません。このイチヤクの葉
を蔭干にしたのを便所の内
に吊して置きますと、臭氣
どめになります、よもぎの
葉を細く刻んで便所の中へ
散らしておきますと、臭氣

驚いた馬が

腹を突かれ

十三日午後三時頃平町古鍛
冶町鐵道踏切にて列車通行
の爲め遮斷機が下りて居た
ので石城郡高久村大字下山
口志賀久作雇人矢吹淺之助
(三)が馬を挽いて休んで居
た處子供等が面白がつて馬
の腹を棒で突いた爲め驚い
た馬が矢庭に逸走し傍らの
屋臺店に飛び込みサイダー
瓶數本を破壊したと

自轉車と オートバイ

衝突して負傷

十九日午後二時頃平町研町
白萩酒店方店員大沼忠衛
(二)がサイダーダースを
配達せんと警察署前に差か
つた所同町自轉車業大野
春吉のオートバイと衝突し
て兩名共負傷をなし平署に
て取調中

不平受付

投書歓迎

深夜の運動、深夜の選挙
運動は弊害が伴ふ爲め禁せ
られて居るに拘らず期日の
切迫と共に各所に盛んであ
る何故に是れを取締らぬか
(不審生)

募集

文藝其他投稿
を募集します

事は致させないだけの警
戒を怠りません尚ほ深夜
の運動がイッ何處に行は
れたか具体的知り度い
と思ふ

常磐片々

某印刷屋の機關新聞が先日
の町制刷新演説會に出掛け
た片々子の袷天着姿を目し
て變装と云ふ

袷天は前にも後ろにも社名
入りでは本社正服とも
云ふべきである

ねじくれ者のノビゾーには
是れが變装と見るのか

親爺の造つて呉れる水でも
頭へのせてよく考へて見て
はさうだ、それでも解らな
かつたら低脳に生れた恥を
知れ

本年度の 平町新事業

新道路と水道

石城郡平町に於ける大正十
四年度の事業としては南町
裏の新道路から更に町の従
來の幹線に連絡する工事で
工事費五萬八千八百圓六線
及び水道擴張工事の十五萬
圓であるが前者は大正十三
年度から繼續となつて居る
が總工費五萬八千八百圓中
四萬三千五百餘圓は町地主
の寄附となつて居るから實
際の際の町費の負擔は一萬五千
圓である後者は十五萬圓中
縣補助二萬圓を控除し十三
萬餘圓の經費であるから同

中野氏は 日意志發表

町議候補として末だ去就決
せざるもの、如く傳へられ
て居た中野甲藏氏は本日午
後三時警越銀行重役を招集
し意志を闡明する由

落ち込んで 少女の慘死

石城郡内郷村大字綴字一〇
警城炭礦居住新潟縣生れ安

星一氏の 冷凍法講演

昨夜の聚樂館

田ジンの二女安田ヨシ子(三)
は十九日午前九時半頃母
が石炭拾へを爲しつゝある
傍らにて遊び居たる處誤つ
て捲立機の中に落ち込み重
傷を負ふて死亡した

既報星一氏の冷凍法講演會
は昨夜七時より聚樂館に於
て開會先づ辯護士仲里文平
氏の開會の辭に次ぎ星製藥
社員小川吉辰氏並びに本郡
賣捌代表山野邊藤次郎氏の
挨拶原商學士「星の効用」
大島理學博士の「冷凍法に

午後からはイッ
騒々しい工場
の音が例であ
るが、その音
が流れて、
近所の家で鳴
らす、其音が
流れて、
静かなる頭腦
を非常な冷
静ならしめて
呉れる、
更らながら音
樂の有難さ
を痛感せず
には居られな